

美浜館名物『かぶらのはさ掛け』を冬の風物詩に

“変化を恐れず前向きに”がモットー



愛荘町沖
森治久さん(64)

主な生産作物

作物名	作付面積
水稻	2ha
カブ	20a
トマト	20a
その他野菜	

(令和2年度)

55歳の時に会社を退職し、農業大学校を経て就農しました。滋賀県の伝統野菜「万木かぶ」の生産・加工や、堆肥の発酵熱を利用する踏み込み温床での育苗と少量土壤地耕という県独自の養液栽培システムを組み合わせたトマト栽培を中心に行ってています。

農業、特に野菜の生育管理はとても難しいなあと思います。天候に左右される部分もあるため、9年目になる今でも自分で完璧という年はありませんでした。より良いものを作るため、毎年試行錯誤を繰り返しています。

『かぶらのはさ掛け』に協力

昨年から、彦根市石寺町の直売所「美浜館」に設置される『かぶらのはさ掛け』に使うカブを提供しています。私がこれまでカブを干していた場所と美浜館を比べると、美浜館の方が圧倒的によく乾いたことに驚きました。

やはり琵琶湖岸から吹く風が良質なのだと思います。自然環境の偉大さを感じました。美浜館で行う『かぶらのはさ掛け』は大変見応えがあるため、ぜひひとも今後も風物詩として継続して取り組んでいけるよう、供給量を増やすなどして協力を続けたいと思っています。

これからの目標

農業だけに限らず生きていく上で

大切なのは、変化を恐れず常に上を目指して取り組むことです。私が独自で

行う直売所でも、ディスプレイを通じて接客する「リモート販売」を日々予定しています。上手くいくかどうかは

未知数ですが、地域の話題の一つで

もなれたらと挑戦することを決めました。

あと10年は現役で、地域農業の維持・発展に役立ちたいと思っています。

前へ進むことをやめてしまったら、そ

こで終わり! これからも頑張ります。



鮮やかな紅色をした滋賀県の伝統野菜「万木かぶ」

自

分の意思でほとんど全てを管理できるのが、農業の魅力でもあり、厳しいところですよね。

従兄弟の田中さんとカブをはさに掛ける森さん(写真左)



完成した美浜館名物『かぶらのはさ掛け』
毎年11月から12月にかけて、美浜館敷地内にて干しています。

Search!

今月の表紙

今月の表紙は、いきいきと育つカブです。純白の肌が美しいです!!

J A 東びわこでは、水稻育苗ハウスを利用した白カブを重点園芸品目と位置付け、地域農業の維持・発展と生産振興やトータルコスト削減による農家所得向上の取り組みを進めています。栽培に関しては、お近くの営農担当職員へお気軽にお尋ねください。



Contents

- 4 特集 深めよう! 地産地消
彦根市立病院の病院食とともに考える
- 6 今日からはじめる 家庭菜園
- 8 ピックアップ! 地域のEすとニュース
- 10 あつまれ 地域のEひと
- 12 スタッフルーム
- 14 旬の野菜おいしさ伝え隊
おすすめレシピ